

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193800065		
法人名	有限会社フクシ		
事業所名	グループホーム藤の里大越		
所在地	埼玉県加須市大越3386-1		
自己評価作成日	令和3年7月7日	評価結果市町村受理日	令和3年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	令和3年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出規制がある中、3密を避け施設内でできることを模索し、昨年度より、今までにないようなレクリエーションを毎月行った、また、利用者の楽しみやご本人の体力維持に努めた。
今年初め頃より施設駐車場に花壇やプランターを作り、花や作物を育て自然のある環境を作ったり、新鮮な野菜を召し上げて頂いていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 新型コロナウイルスの影響を考慮しつつも工夫した面会により家族との関係継続を支援しています。家族の意見をくみつつ、できないことについては丁寧な説明をもって対応を図っています。
- 科学的介護情報システムの活用についていち早く取り組み、自立支援に資する効率的なサービス提供の実現に努めています。そのための個人情報使用についても説明と同意にあっています。
- 職員に対してはリモート機器を活用しながら研修による研鑽を進めています。内部研修の実施さらに職員の力量発揮のため、外部研修への参加も視野に入れられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念だけではなく、毎月のミーティングにおいて理念の共有を行っている。	利用者も職員も笑顔で過ごすことができるよう環境整備への意識がなされている。コロナ禍にあっても元気に・体を動かしながら法人の理念実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事の参加が中止となっている為、本年度は交流が難しくなっている。	近隣の方々も新型コロナウイルスに配慮し、行事の誘いや訪問を控えているが、開設より年月が経過し、地域の方々の認知度の向上を感じている。	新型コロナウイルスやワクチン接種の状況を考えながら地域交流の再開を検討している。まずは事業所内で開催のそば打ち等から始めることを思案している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、疎遠ではあるが近隣住民の心身状況の変化に気づき、行政や民生委員へ連絡するなど、早期に必要な支援が行われるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、三密を防止する為、推進会議の実施出来てはいないが、定期的な議事録の配布と共にFAXやお電話にて意見等を集い、再度議事録に記載し周知している。	顔をあわせての会議開催は自粛しているものの、書面の配布を通して活動の報告がなされている。疎遠にならないよう書面を持参するなど工夫に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の事務的処理、状況報告、相談など市役所の各担当者とソーシャルディスタンスを徹底し顔の見える関係を築けている。	行政からはコロナ禍において、マスクの配布等・蔓延防止策の指示等協力をいただいている。外部評価の実施等についても相談を仰ぎながら進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。コロナ禍で外出が難しい昨今、マスクを着用し施設駐車場と限定的な空間を取り決め散歩等をし外出を心掛けている。閉じこもりはなく、玄関の施錠もしていない。	身体拘束廃止委員会は運営推進会議とともに、地域の方々への知識付与の機会ともしている。また職員に対してはリモート機器を活用しながら研修による研鑽を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ZOOMやYouTubeなどを用い、外部研修を取り入れ施設内の研修課題とし、徹底している。また、対応が難しい事例が発生した場合は、臨時研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用し、日常生活、個々の必要性を関係者と話している。職員にもそれらの制度の理解し学ぶ機会を設け、さらなる支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時における説明において利用料金、施設内のサービス、緊急時などにおける対応について、不明な点が無い様、ご家族に説明し、納得頂いている。制度改正時には、同意書を作成し、都度説明了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの訴え、様子等を該当職員以外に申し送りし情報共有を行っている。玄関に意見箱を設置している。コロナ禍ではあるが、時世に合わせて、玄関先で三密を避け短時間でのみ面会をし、意見の聴取を行っている。	新型コロナウイルスの影響を考慮しつつも工夫した面会により家族との関係継続を支援している。家族の意見をくみつつ、できないことについては丁寧な説明をもって対応を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者からは日中、夜間常問わず対応した職員から他の職員への申し送り、家族には意見箱を設置している。コロナ禍の為限られた時間ではあるが面会時や電話連絡時などでも意見を聴取出来るよう努めている。	ホーム全体での会議を定期で行っており、方針の共有、利用者への理解に努めている。男性職員の割合が多いことを活かし、イベントや環境改善を進めている。	欠点を埋めるだけでなく職員の長所をどのように伸ばしていくかを課題としている。取り組みの先には外国人実習生の受け入れも視野に入れられており、多様性の理解と活用が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が統括管理者、管理者と職員とが個々で面談を実施し、評価する。その中でやりがいや給与基準なども話し合い、環境を整えるよう努めている。管理者の評価も職員配置に活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修担当者を決め研修会を行っている。また、新たな資格の取得、外部の研修などに参加させ、スキルの向上を目指している。ZOOM研修などの参加に参加しやすい環境整備を行い参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着事業所連絡会に参加し、情報交換や研修に繋げている。コロナ禍で一時期開催中止を余儀なくされたが、現在はZOOMを活用しオンライン上にて顔の見える環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でアセスメントを取り、サービス利用開始にあたっては、必ず本人と会って不安や困っていることへの思いに向き合い、信頼関係に努めている。常にニーズを探っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況を把握して、思いや気持ちに共感し、どのような対応が出来るか時間をかけて話し合っている。本人、家族の意向をケアプランに生かし、サービスを提供している。また、経済的負担などについても的確に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いと状況等を話し合い、必要としている支援の提案、他のサービスも案内し、本人に合ったサービスが受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活をしていく上で、色々なことを職員も共に受け入れ、居心地が良いと思って頂けるような声掛けや介護をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えをありのままに連絡し、求めていることには出来る限りの協力をして頂いている。 コロナ禍の為、短時間ではあるが面会等も促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で受診のみとなるが外出先で知人に会った際はプライバシーに配慮した上で、現状を伝えている。感染防止の為、外出は必要な時間のみとしている。	嗜好や習慣に配慮し、居室への持ち込みがなされている。自身も忘れていた事項を日々のコミュニケーションを通じて思い出すなど「馴染み」へのアプローチに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係をうまくいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も面会をしたり、家族との交流、行事参加を呼び掛けるアフターケアをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人が「人」として尊重し、その人の視点や立場に立って、その人を理解し情報を職員同士で共有しケアをしている。	入居時のアセスメントから始まり日々のコミュニケーションを通して意向の把握に努めている。意思の表明が難しい利用者に対しては職員間での話し合いや家族からの聴取を通して検討にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者からの情報収集したもののから話を展開し傾聴している。日常的な生活の選択パターンを把握して本人に合った環境を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ない事を把握。やっていないことを挑戦して頂き、出来る事少しでも多くすることに努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成アンケートを用い全職員から意見を取り入れている。身体状況や精神状態の変化に即した介護計画を立てている。毎月のケアチェックも行っている。	作成・更新されたケアプランを確認し、支援方針の共有に努めている。利用者・家族の要望の把握、居室担当職員からの意見を踏まえ、利用者一人ひとりに即した介護計画の策定に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排せつ、入浴の記録。介護記録も個別に記入している。申し送りなども活用して情報の共有が出来ている。本人の訴えは本人の言葉で記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化で家族が受診対応出来ない時は、送迎を引き受けたり、往診サービス、訪問理美容など提携している生活保護者への事務的な手続きなども家族に変わって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるよう民生委員、消防、公共施設等、普段から活用し連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医にしている。 受診時には、医師へ本人の近況報告など情報提供している。	往診や通院同行時には日常の様子や利用者の変化について報告し、指示を仰いでいる。服薬についての相談等をし、適切な支援となるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療に根付いた訪問診療と連携し、訪問診療時以外の体調不良等も担当看護師、医師と連携を取っている。緊急時にはオンコールにて担当看護師と24時間連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の協力を頂き、医療機関と三者一体となり、退院計画を具体的に話をしている。 かかりつけ医に本人の認知症の状態を説明し理解してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に藤の里が対応できるケア、サービスについて説明し、不安を感じないような体制を取っている。本人・家族の意向に沿ってケアを行う方針である。	ホームのできる支援についての説明、かかりつけ医からの助言に鑑みながら対応を図っている。急な対応とならないよう事前に家族と相談し、先を見据えた支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修を行い、AEDの使用方法を職員全員に周知徹底している。 緊急時対応マニュアルを作り、定期的に見直し改善に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年6回)に防災訓練を実施し、災害時の対応に備えている。水害時では、避難場所の指定を行い、事前に避難する、職員全員に周知徹底している。当施設が福祉避難所であることを地域の方へ伝えている。消防署立ち合いの元、定期的な避難訓練の実施を行っている。	夜間・火災想定等の訓練を実施している。また救急救命の講習を受講し、緊急事態への対応に備えている。ヒヤリハット・事故報告書を整備し、転倒・誤薬等の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴や価値観を尊重し、プライバシーを守る環境作りに努めている。 また、言葉遣いに留意している。	利用者の特性を把握し、それぞれに対応できるよう支援力の向上に努めている。声かけにあたっては語尾に留意するよう指導にあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをし、ニーズを表に出しやすいように、選択肢を提供して、本人の意思決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日ごとの心身状況に応じた、本人が望む暮らし方の選択を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に衣類は自己選択している。季節外れなどに関しては、別なものを本人が選べるような声かけをしている。起床時にはモーニングタオルを用意し顔を拭いて頂く、整髪、髭剃りを促し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食が難しい為、季節ごとの手料理やテイクアウトなども活用している。個々の嚥下状態などに併せて食事を楽しめるように工夫している。医療的な支援が必要な方にはカロリー、塩分などを計算し適切な食事が出るようにしている。	カロリーを計算した食事の提供により健康が維持されるよう努めている。利用者にとってバラエティに富んだ食事提供にあっており、これまでの取り組みの成果として残食の減少を確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い記録し、職員が状況を共有している。食事介助や促す声かけ、刻み食、お粥などで対応支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助で、または一部介助での口腔ケアをしている。自力で口腔ケアされた方にも残渣物がないかなど確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心身状況も含め、排泄パターンを把握してトイレの誘導の声かけをし、トイレで排泄出来るように支援している。	便秘がちな利用者に対しては腹圧マッサージなど改善にあたっている。記録の確認により利用者一人ひとりへの対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動要素を取り入れたレクリエーションやコロナ禍の為、室内のみではあるが散歩をし自然排便出来るように支援している。 また個々に処方箋の便秘薬を医師の指示の元調整し服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添ったタイミングや入浴剤などを使った雰囲気作りで楽しんで入浴出来るような環境を提供している。同性介助の取り組みもある。	広さと使いやすさにより浴室を選択しながら入浴がなされている。ユニットにより入浴日を定めているものの、柔軟かつプライバシーに配慮した対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝や入眠時間など本人のペースで気持ちよく寝ている。 換気や室温調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問医療の連携があり、服薬状況もかかりつけ薬局が仕分け、設置を行っている。 また、飲ませ方、副作用の説明相談等随時行え、連携が密に取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣味や特技が活用出来るレクリエーションを行っている。 利用者がお互いに声かけ合い参加を促せる工夫をしている。お礼を言ったり、褒めたりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、施設駐車場という限られた範囲ではあるが室内に籠もらない支援をしている。	コロナ禍にあつて外出を自粛するなか、施設内や近隣の散歩等を行っている。密をならないよう留意し、土手で花を摘むなど環境を活かした取り組みがなされている。職員の発想を活かせるよう行事の担当月を決めるなど運営上の工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が難しい中ではあるが、出来るだけ欲しいものを選んで購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近くの家族、遠方の知人、親類など、必要に応じて手紙や電話通話で連絡が出来るように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な室温や照明などの調整管理をしている。 テーブルに季節の花を置いたり、室内に季節ごとの飾り付けをしたり、花壇に植物を栽培したりと季節を感じ取れる環境を提供している。	換気、消毒等新型コロナウイルスの対応に努めている。利用者にも説明し、マスクを着用してもらうなど丁寧な説明に本ホームの特長があらわれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側に席を用意したり、相性などを考慮した席替えをして落ち着ける環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みの物を本人、家族と相談して居室でも使用頂いている。お札や衣装ケースを持ち込んでいる利用者もいらっしゃる。	居室担当職員により美化や整理および意向の聴取にあたっている。馴染みのものの持ち込み、使いやすい配置等により利用者の個別スペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋を理解出来るような工夫や、身体能力に合ったトイレを使用して頂いている。歩行時に躓いたりしない安全な環境などを作っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	段階的にはワクチン接種が終了しているが、未だ接種していない人もいる中で、地域との関わりが希薄になっている現状を、以前のようにとまではいかないが改善出来ないでいる。	推進会議を活用し、段階的にそば打ちや地域の活動に参加していけるようにする。	定期的な推進会議の議事録を参加者へ直接お渡しに伺い、推進会議の再開を慎重に相談しながら意見交換している。	12ヶ月
2	10	ご家族や知人との面会の在り方、ワクチン接種は終了したが、完全に新型コロナウイルスを防げるわけではないので、面会等の制限をどこまで緩和するかが課題である。	ソーシャルディスタンスを維持しつつ、適切な面会条件を整える。	ご家族の希望を聞き取りしつつ、施設側で出来る条件を模索している。	3ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。